

2014-13-2

ウォンバット・肺

牛病理 水上智秋

提出機関： School of Animal and Veterinary Sciences,
University of Adelaide

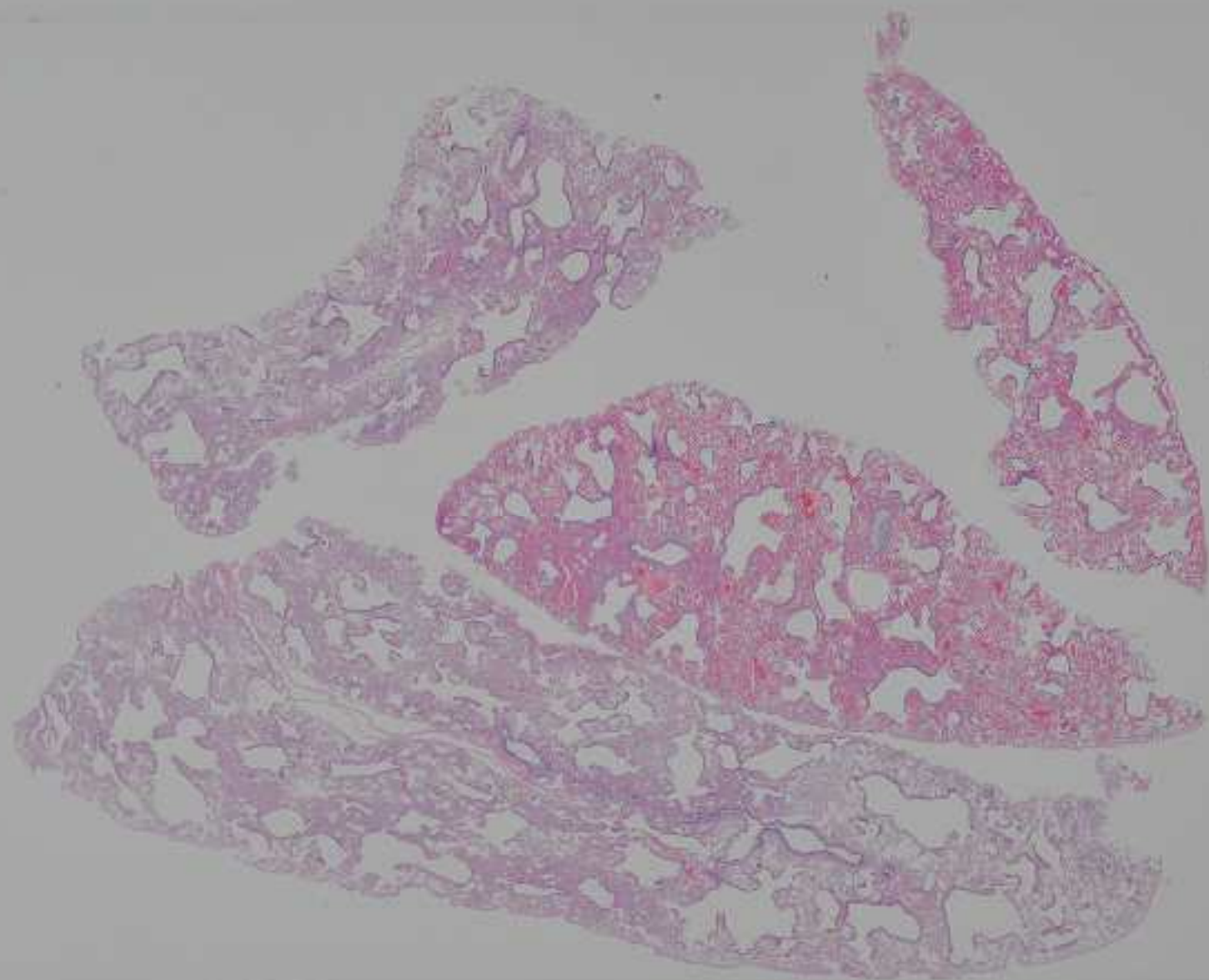


症 例： ミナミケバナウォンバット (*Lasiornhinus latifrons*)

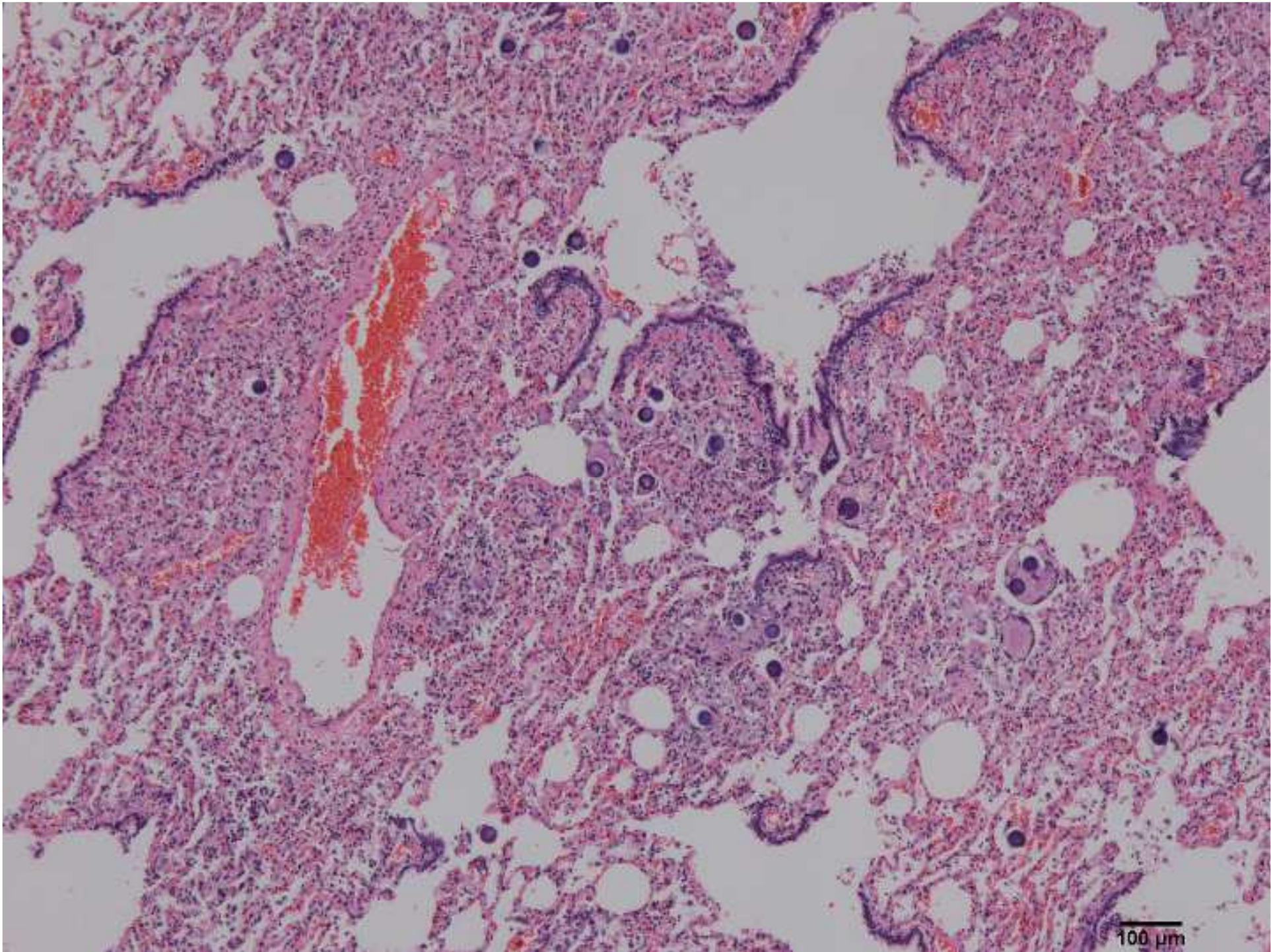
(出典：wikipedia)

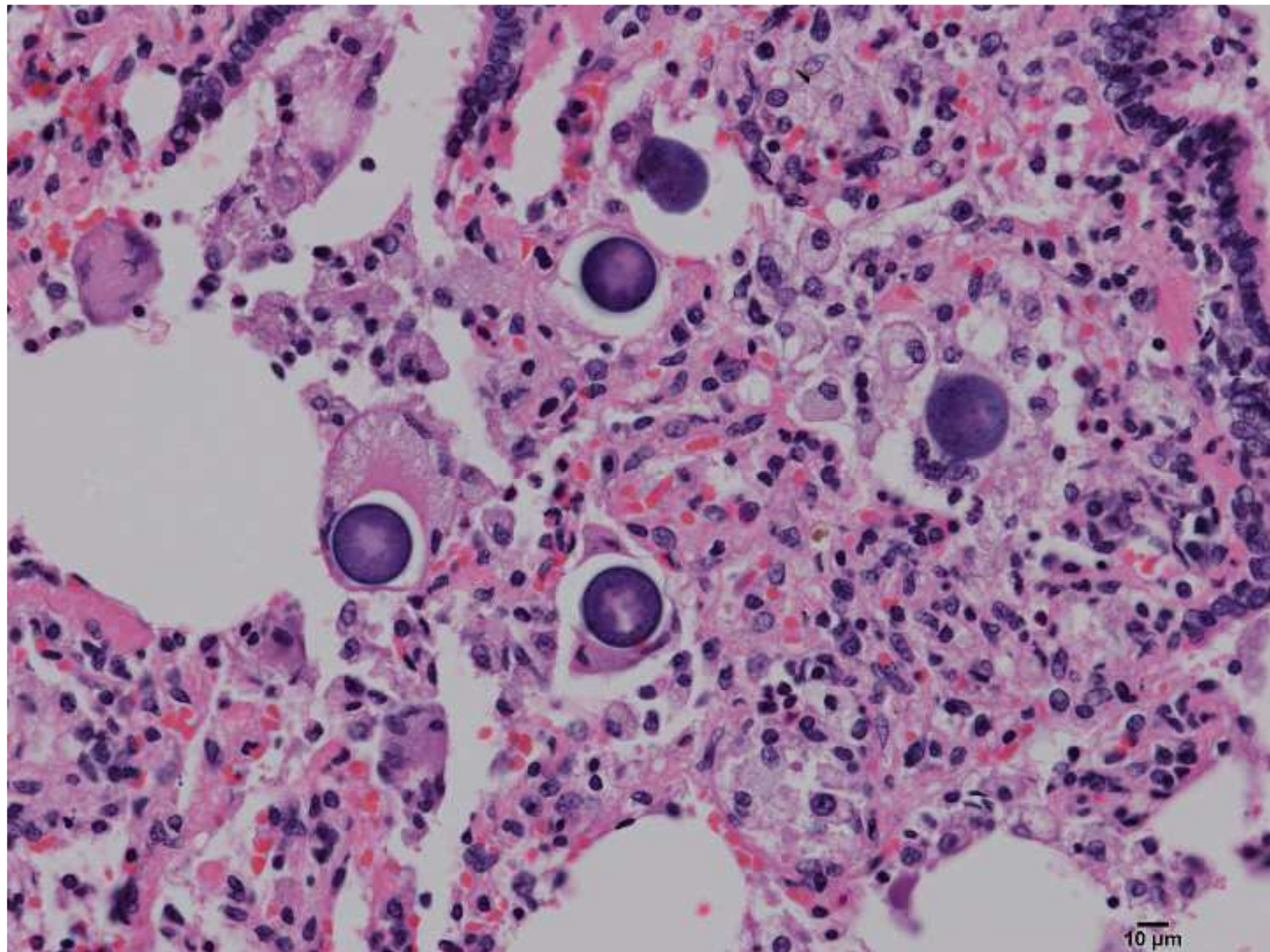
病 歴： 複数の野生のウォンバットが脱毛症・皮膚炎・削瘦を呈しているとの報告が、ウォンバット保護団体からあった。
本症例のウォンバットは、アデレード大学による調査研究のため処分された（頭部銃殺）。

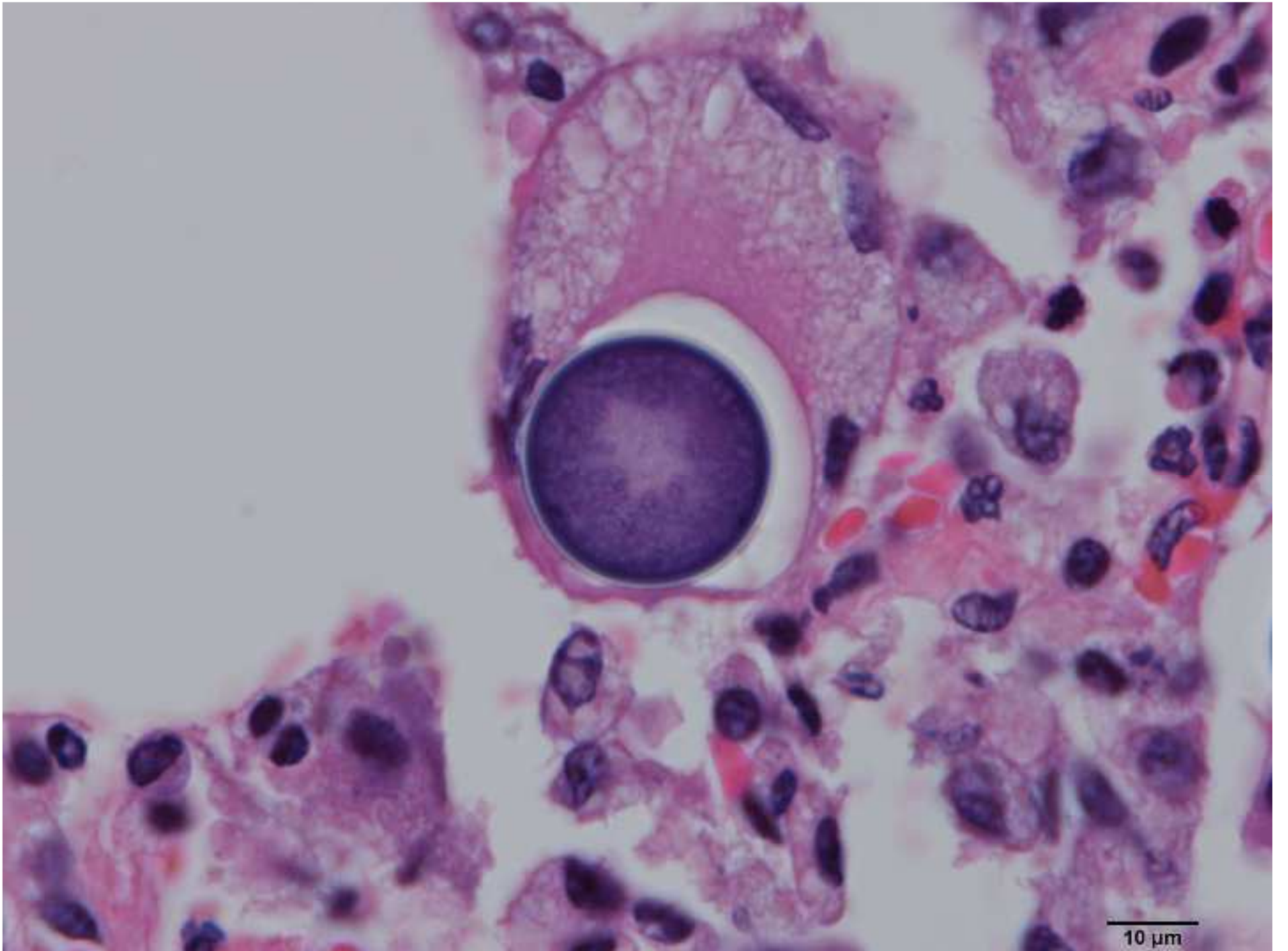
肉眼所見： 1. 背部および腹部に多病巣性中等度の脱毛症、軽度脂漏症および滲出性皮膚炎を伴う
2. 頭部の重度外傷、頭蓋および顎の粉碎骨折を伴う
3. 削瘦
4. 十二指腸の条虫症
5. 結腸の蠕虫症

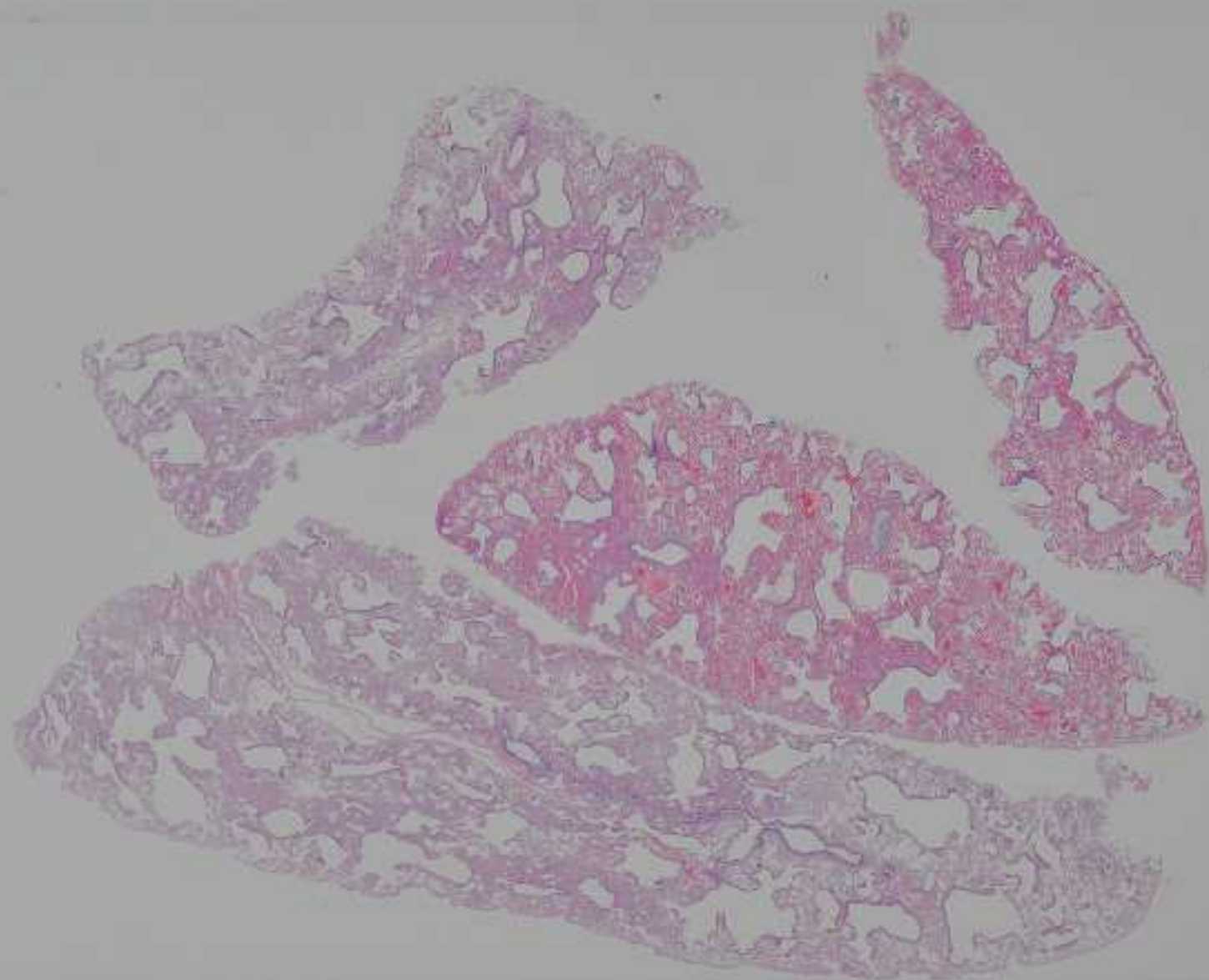


1mm

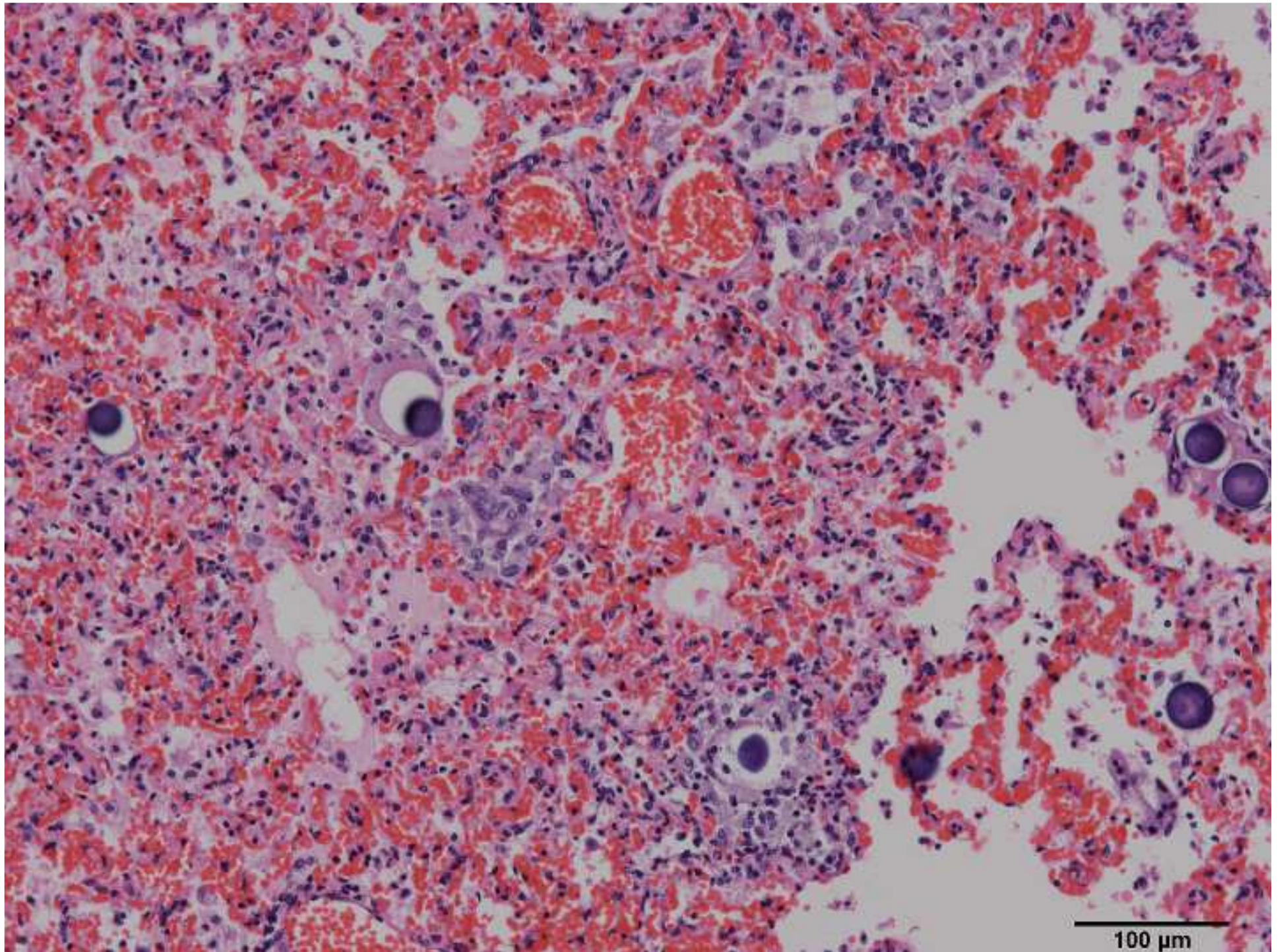


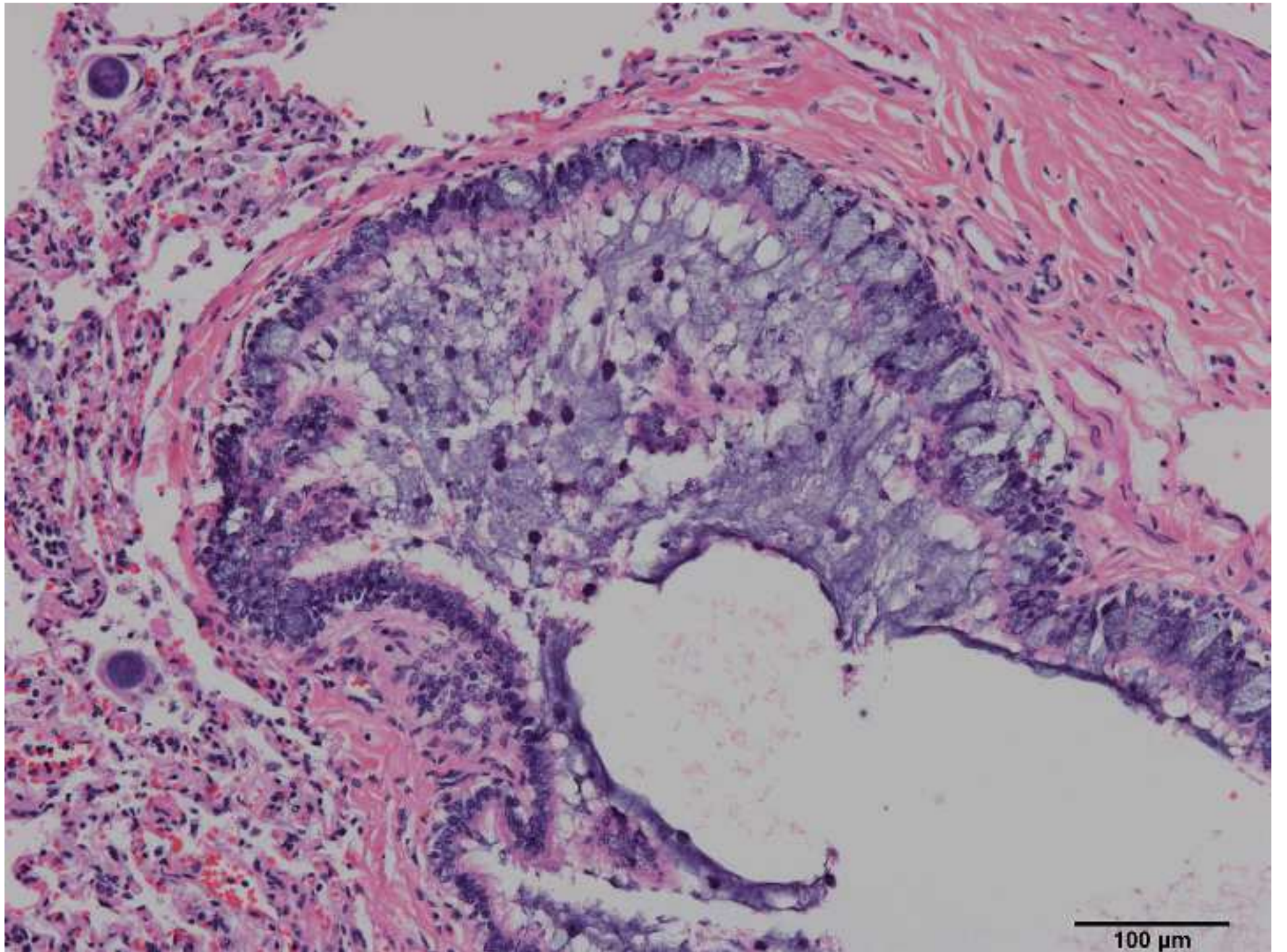






1mm





提出者の診断

1. 肺：中等度組織球性間質性肺炎と線維症、病巣内に真菌成分を伴う
(*Emmonsia parva*と考えられた)
2. 肺：多病巣性肺胞内出血および充鬱血

1. Lung: Moderate histiocytic interstitial pneumonia and fibrosis with intralesional fungal elements (interpreted as *Emmonsia parva*).
2. Lung: Multifocal alveolar hemorrhage and congestion.

JPCの診断

肺：肺炎、間質性、肉芽腫性、びまん性、軽度から中等度、ときに組織球内の不応胞子を伴う

Lung: Pneumonia, interstitial, granulomatous, diffuse, mild to moderate, with occasional intrahistiocytic adiaspores.

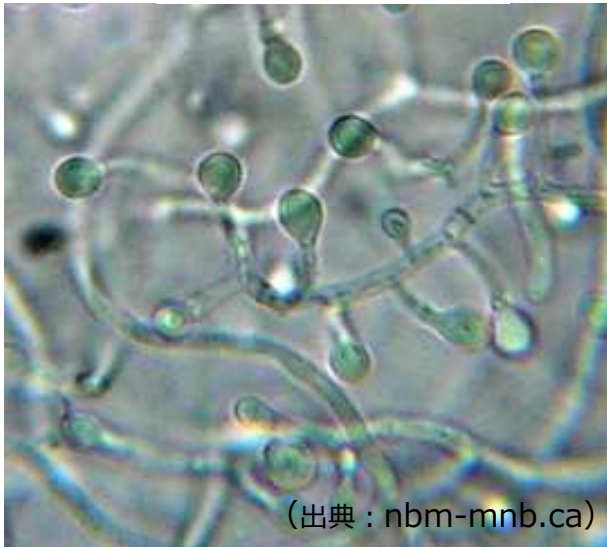
提出者のコメント

☆*Emmonsia parva*による肺のアジアスピロミコーシス (adiaspiromycosis)

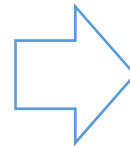
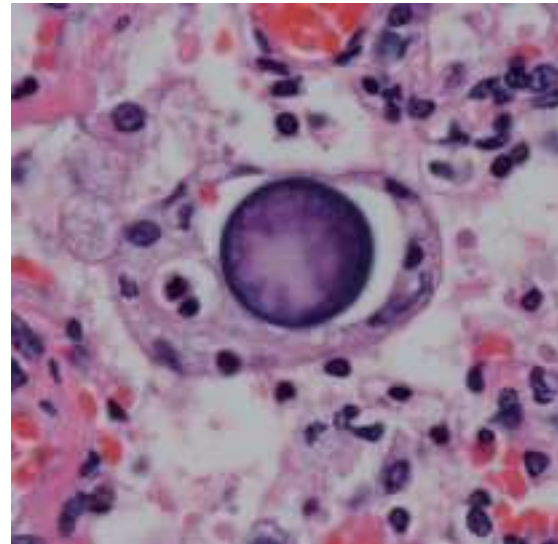
☆*Emmonsia parva* (旧 : *Chrysosporium parvum*)

- 土壌常在性 二形性真菌
- 小型齧歯類、肉食獣に経気道感染
- ウオンバットは袋にいる子供の時に感染。成長とともに不応胞子が大きくなる。
- 不応胞子は、出芽や複製しない

菌糸、分生子



不応胞子 (Adiaspore)



他の真菌との鑑別

深在性真菌症をおこす真菌			組織内形態
<i>Emmonsia parva</i>	海外	二形性	20-40 μ m、non-budding、単核
<i>Emmonsia crescens</i>	海外	二形性	大型（ \sim 500 μ m）、しばしば複核
<i>Coccidioides immitis</i>	海外	二形性	多数の内生孢子(2-4 μ m) を内蔵した球状体(20-60 μ m)
<i>Blastomyces dermatitidis</i>	海外	二形性	球形、厚壁の大型酵母形細胞（8-15 μ m） budding
<i>Histoplasma capsulatum</i>	海外	二形性	球形 \sim 卵円形の酵母細胞(2-4 μ m)、budding
<i>Paracoccidioides brasiliensis</i>	海外	二形性	酵母型の親細胞（15-30 μ m）から多極性出芽によっていくつもの娘細胞（2-10 μ m）がつくられる
<i>Penicillium marneffeii</i>	海外	二形性	卵円形 \sim 楕円形の小型酵母細胞（2-3 μ m）
<i>Aspergillus</i> spp.			菌糸
<i>Candida</i> spp.		二形性	酵母様、偽菌糸
<i>Cryptococcus neoformans</i>			円形 \sim 卵円形の小型酵母（4-8 μ m）

JPCのコメント

☆*Emmonsia*は通常、気管支肺炎を引き起こす。この症例を間質性肺炎と分類するか？

→変化はおおむね間質に限定されていた

☆*Blastomyces dermatitidis*との違い

- *Emmonsia spp*は自然治癒性で、患者は支持療法のみ受けることが多い
- *B. dermatitidis*は激しい肉芽腫性反応を引き起こし、全身性に拡がりうる

→*Emmonsia spp*は、*B. dermatitidis*や他の二形性真菌で同定されている病原性因子（深刻な呼吸器疾患としばしば全身性の疾病の原因となることが知られている）を欠くためではないかと考えられている。